

INAXガレリアセラミカは“新鋭作家による新しいやきものの表現の場”として企画展を開催しています。

宮永春香展

白陶 やわらかく編む

会期 = 2008年4月4日(金)~5月1日(木)

休廊日 = 日祝

開館時間 = 午前10:00~午後6:00

作家によるアーティスト・トーク開催 = 4月4日(金) 午後6:30~7:00

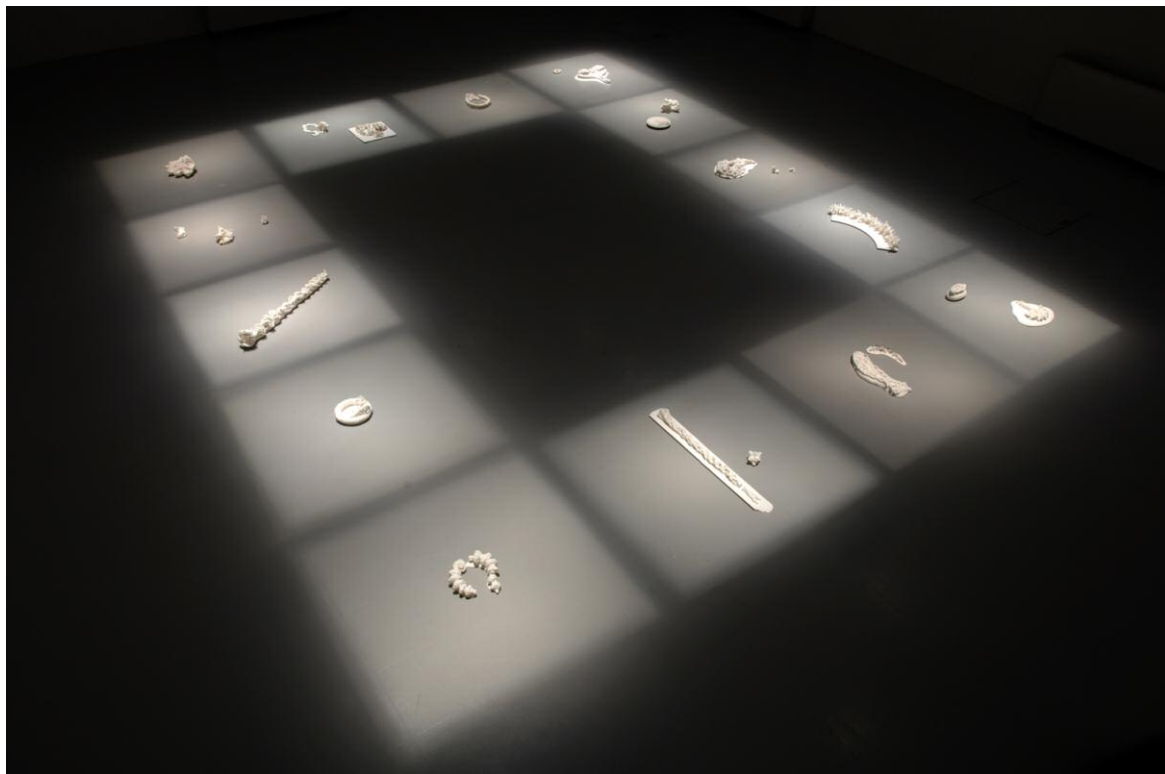
会場 = INAXガレリア セラミカ

東京都中央区京橋3-6-18 INAX:GINZA2F TEL03-5250-6530

企画・制作 = 株式会社INAX

入場無料

INAXの文化活動ホームページアドレス<http://www.inax.co.jp/culture/>



「FEIT I CO」2007 h 12 x w 360 x d 450cm

次回予告

安達知亨 展

2008年5月8日(木)~6月3日(火)

INAX ガレリアセラミカでは宮永春香(Miyanaga Haruka) 白陶 やわらかく編む を開催します。

(2008年4月4日～5月1日)

会場の四角く切り取られたスポットの光に浮かぶ、赤ちゃんのソックス、リース、花のような編み物 - 「FEIT I CO」=ポルトガル語で「お守り」と名づけられたこの作品は、泥しょうをつけた紙紐を、編み物と同じように鉤針で編むことで出来ています。

真っ暗な会場に出現した14点の白土による作品は、ジュエリーやお守りといった誰かの大切なもの、想いをコレクションするようにつくられています。フロアに直に置かれた作品は、誤って踏んでしまいそうな儚さと同時に、強い思念を象徴するような存在感を放っています。

宮永春香は今春大学院博士課程を修了したばかり、金沢で陶芸を始めて8年目になります。目下のところ、目の前にあるかたちや方法をどんどん試しながら制作をしている最中で、これまで千変万化するように異なる作風の作品を発表して来ました。

内側が灰色の真っ白なメビウスの帯のようなかたち、うねうねとくねる蛇腹で出来ている水生植物群のようなかたち、ボロボロと崩れる地層を立方体に切り取ったかたち。いずれもダイナミックなムーブメントを持ち、モダンでシンプルな印象ながら、大地の根源的な力強さを感じさせることが魅力です。

宮永の特徴は、蛇腹は支持体に紙紐を巻くことで、地層は土を型に入れてつくるという風に、常に制作方法と形態が結びついています。作品の肌はいつも骨のように白く硬質ですが、その清らかな美しさを纏ったかたちは必然性のある構造に支えられ、確固たる緊張感に満ちています。

窯を焚く度に、生じた紙の灰は粉として素材へ、或いは焼成後に残るものと消えるものへとテーマが増えて行きます。やきものの魅力をふんだんに生かしながら、可能性を広げている宮永の新作展をご覧ください。

[宮永春香(Miyanaga Haruka)プロフィール]

1980 金沢生まれ	2006 日韓現代陶芸新世代の交感展 2006(愛知県陶磁資料館/瀬戸)
2005 金沢美術工芸大学大学院 修士課程美術工芸研究科 修了 / 同大学院博士課程入学	2007 existence of TEN - 10人の美術家たち - (ギャラリー点/金沢)
2008 金沢美術工芸大学大学院 博士課程美術工芸研究科 満期修了	RESONANCE - 共鳴 - 能登半島地震復興支援のためのチャリティー展(ギャラリー点/金沢)
個展	collaboration 結実の土・陶の美(G-WING ギャラリー四緑園/金沢)
2006 村松画廊(東京) ギャラリー点(金沢)	第二回世界文化遺産 白川郷芸術祭(五箇山合掌の里会場:羽場家)
グループ展	第9回金沢美術工芸大学大学院博士課程修了研究作品展(金沢美術工芸大学)
2002 第40回北陸中日美術展(石川県立美術館)	2008 existence of TEN vol.2 - 10人の美術家たち - (ギャラリー点/金沢)
2003 金沢美術工芸大学第44回美術工芸学部卒業制作展(金沢美術工芸大学)	賞歴、その他
第41回北陸中日美術展(石川県立美術館)	第41回朝日陶芸展 秀作賞(2003)
第41回朝日陶芸展	第40、41回北陸中日美術展 入選(2002, 2003)
吉野谷アート&クラフト展 2003(吉野谷工芸の里/石川)	吉野谷アート&クラフト展2003 佳作賞(2003)
2004 再起 - 珪藻土の新たな活用 - (金沢美術工芸大学敷地内旧本部長校舎/金沢)	津幡町文化会館 シグナス (石川県)に作品設置(2005)
2005 珪藻土アートプロジェクト Installation「生命・珪藻賛 ~ 1200 万年前の海底から」(金沢21世紀美術館)	金沢美術工芸大学大学院修了制作買取(2005)
「土を焼く人為・その有機と無機の間」金沢美術工芸大学伊藤公象研究室(ギャラリー那珂/金沢)	金沢美術工芸大学大学院博士課程修了制作買取(2008)
金沢美術工芸大学第23回大学院修了制作展(金沢21世紀美術館/市民ギャラリー)	